

生涯教育だより

2024

春

季刊 No.134



富士山反射炉（静岡県）

評議員会・理事会および研究助成金授与式	2
論文入賞者表彰式	4
歴史研修「丹波・播磨の城めぐり」	6
美術研修「北の大地（小樽・札幌）のアートをたずねて」	8
プロフィール・インタビュー スタンレー電気株式会社 社友会 理事 古田 透さん	12



評議員会・理事会 および 研究助成金授与式・ 論文入賞者表彰式開催

時代の変化に合わせた学びの機会を提供



あいさつをする
北野 七重専務理事

2023年11月10日、The Okura Tokyoにて評議員会・理事会および研究助成金授与式、論文入賞者表彰式が行われました。評議員会では、第50期決算および第51期予算が報告され、すべて承認されました。

その後、会場を移し、研究助成金授与式、論文入賞者表彰式が行われました。冒頭、財団を代表して北野七重専務理事が次のようにあいさつしました。「世の中の日常や生活が急速に回復する中で、今回はコロナ禍以前と同じ形式で開催することができました。授与された皆様、入賞された皆様、本当におめでとうございます。近年はAI・ロボティクス技術の急速な発展が進み、それらを積極的に活用することで高齢化社会・労働者不足といった課題の克服を目指しています。そのような中でも、私たちは生身の人間として喜怒哀楽を忘れてはいけません。当財団は、いつでも、どこでも、だれでも学べる、をモットーに、人間性豊かな人を育て、実りある人生を送ることができるよう、そして自己の人格を磨くことができるように、生涯にわたって学びの機会を提供してまいります。」

研究助成金授与式

続いて、生涯教育に関連する調査、研究を支援するための研究助成金の授与式が行われました。今回は助成した12名の内9名が出席し、研究題目と概要が司会者より発表されました。

「看護師長の看護管理実践能力を活かしたセカンドキャリア就労支援に向けたプログラム開発」

大重 育美さん

〔長崎県立大学 シーボルト校 看護栄養学部 教授〕

医療改革により看護職の人材育成が急務になる中で、定年後に再就職をした看護師長を対象に、セカンドキャリアに進んだ転換期を振り返り、どのような行動がキャリアを切り開く上で必要であったかを、明らかにしていきます。

「生涯学習の場としての地域日本語教室の意義と課題」

古田 梨乃さん

〔新潟大学 教育基盤機構国際センター 准教授〕

ボランティアとして在留外国人に日本語を教えている講師の不足・高齢化が顕著です。本研究ではボランティアへの参加意義・課題を明らかにし、ボランティア人材の確保を進めることで、多文化共生社会実現を目指していきます。

「生涯学習のきっかけ作りとしての星空観望会」

道山 知成さん

〔周南公立大学 福祉情報学部 助教〕

本研究は、「専門家のいない星空観望会」を提案・実践し、学びの多様性を整理・評価を行います。星空を簡単に楽しみ、周辺知識を自ら学び、モチベーションを高めるような施策を通して、地域住民が積極的に企画・参加できる社会の実現を目指します。

「離島の学校体育支援のために活動する地域人材の学びに関する研究」

活動から何を学び、自身の生涯教育にどうつなげているのか」

柴山 慧さん

〔環太平洋大学 体育学科 准教授〕

広島県の大崎上島では、急激に進んだ少子高齢化により教員数が減少しており、体育授業や運動部活動の支援は地域の人材が積極的に活用されています。本研究はそのような地域人材を対象に調査を行い、何を学び、自身の生涯教育にどうつなげているのか明らかにします。

「教師の変容的な学習を促す校内研修プログラムと」

学習する組織」診断ツールの開発」

吉村 春美さん

〔NPO法人学校の話をしよう 代表理事〕

文部科学省は、教員免許更新制の廃止にともない、研修制度に関する新たな指

研究者自身が 「生涯教育」を体現



研究助成金選考委員長
放送大学長

岩永 雅也

今回は93名と多くの方からのご応募があり、大変うれしく思います。近年はコロナ禍で研究もままならない日々が続いていましたが、コロナ禍が落ち着き、せきを切ったかのように応募がありました。どれもレベルの高い力作ばかりで、選考にとっても難儀しました。

今回の応募テーマを拝見して、皆さんの研究の焦点が「生涯教育それ自体」というより「生涯教育で何を学び何をするのか」というところに移っているのがとても印象的でした。もちろんそれはとても嬉しいことではあるのですが、私は、その上で「生涯教育に取り組むことそれ自体の素晴らしさ」も改めて実感していただきたいと、この場をお借りして申し上げます。

また、応募された方の多くがリカレント教育でキャリアを築かれていることにも驚かされました。大学に入り直して学んだり、その経験を活かして新たな職業に就いたりする方が多く、研究者の生き方そのものが生涯教育の実践なのだと感じました。選考する立場でしたが、私自身大いに勉強させていただきました。ありがとうございます。

針改正案およびガイドライン案を公表。しかし、そこには具体的な方法論や学習する組織とはどのような状態であるかについて示されていません。本研究では教師の学習の学習を促す校内研修プログラムや学習する組織の診断ツールを開発します。

「高齢者の学習・教養活動の

社会経済格差の把握と正策の提案」

辻 大士さん

(筑波大学助教)

教育歴や経済格差によって生まれる「健康格差」は高齢者を中心に大きな問題

に。そこで、全国約30市町村の高齢者を対象とした疫学調査を用い、学習・教養活動への参加に関する社会経済格差の状況や推移を把握し、その正策を提案します。

「教師のウェルビーイングを高め

探究マインドを持続させるための研究」

成瀬 喜則さん

(富山大学学長特命補佐)

新しい学びに対して、モチベーションを維持することが困難と感じている教師は多くいます。そのような中で気軽に参加できるようメタバース環境を利

用し、参加者と協力しながら取り組める課題を設定することで、探究マインドを持って学び続ける環境を作ります。

「ミュージアムにおける来館者の

ニーズ分析と事業のリニューアル

動物園における行動調査に基づいて

佐々木 亨さん

(北海道大学大学院文学研究院
博物館学研究室 特任教授)

「長崎バイオパーク」の顕在化されていないニーズを把握・分析するためのより汎用的な手法をモデル化し、持続可能な経営を行うための知見を得て、事業計

画に反映させるまでのトータルな伴走支援をします。

中等後教育において「書くこと」を

通した知的障害者の新たな発達の可能性

川地 亜弥子さん

(神戸大学大学院人間発達環境学研究科 准教授)

知的障害のある方が学校卒業後にさらに学び続けることは難しい状況です。高等教育の場で「書くこと」を通じて学ぶプログラムを提供し、「書くこと」の楽しさにより継続を促し、生涯教育のあり方を変えることに貢献します。



▲助成者を代表して発表
する川地亜弥子さん



▲後列左から辻大士さん、吉村春美さん、柴山慧さん、道山知成さん、古田梨乃さん、大重育美さん
前列左から成瀬喜則さん、沓澤利治常務理事、岩永雅也選考委員長、北野七重専務理事、川地亜弥子さん、佐々木亨さん



論文入賞者表彰式

続いて、第45回懸賞論文入賞者の表彰式が行われました。今回のテーマは「趣味広げる世界・広がる世界」。全国から587編が集まり、19編が入選しました。表彰式に出席した8名の入賞者には北野七重専務理事より表彰状と目録が渡されました。

第1席「つながる世界」

立石 俊夫さん
(長野県・支援員)

大学入学の日、「邦楽部」を訪れた私に、趣味の世界への扉が開かれた。「尺八」との出会い。練習を重ね、自分の出す音に耳を澄ます日々。十歳年上のK氏との出会いによって世界はさらに大きく拓いていく。そして、さらなる夢の実現へ。

第2席「趣味と特技、そしてhobby」

鶴飼 真唯花さん
(東京都・高校生)

なぜ「趣味・特技」は一括りにされるのだろうか。過去の経験に思いを馳せて紐解くhobby。長期にわたって打ち込んできた「稽古事」は「特技」となり自信となり、他者も認める力になる。海外で人種の壁を乗り越えたバイオリン奏者の体験。

第2席「九十歳の母は今も進化中」

伊藤 美智子さん
(宮城県・主婦)

母のスケジュールは詰まっている。中でも月・木のサークルは、三十年以上続けている。父が亡くなり落ち込んでいた母を支えてくれたのもサークルの年齢差を越えた仲間。つながるためにスマホに買い替え、スマホ教室へも通ってしまうほどの行動力溢れる九十歳。

第3席「思い出した夢」

関本 康人さん
(神奈川県・医師)

小さい頃からの読書が高じ「文章で人に感動を伝えたい」と思っていた。社会人となり、祖父の万年筆が書くことの楽しさを感じ出させてくれた。自分の内なる声に耳を傾け、趣味の一つ「鉄道」を通して、さらなる感動を綴りだす。

第3席「終わりになき学びの道」

吉田 結花さん
(神奈川県・個人事業主)

二つ目の学士号「芸術」を授かった。三十年近いブランクがあったピアノ。今だからできる弾き方があるのではないか。音楽を理解するために、と踏み入れた新しい学びの機会。年齢も専攻も問わない音楽という共通の軸を持つ仲間の輪が広がり、私の世界も広がっていく。

第3席「ふたりの私」

増田 晴奈さん
(佐賀県・高校生)

派手な衣装に身を扮し、全方向・全方位完全カワイイ「ヤバイやつ」となり推しのコンサートに行く特別な私。一方で、勉強と部活に勤しむ女子高生でもある私。特別な私を心に秘め、未来を掴むため、受験に挑む自分に専念。

第3席「学びたい理由」

古井 香澄さん
(三重県・会社員)

社会人生活で習得したことを学問として修めてみるのとはどうか。「大学通信教育部学生」になるチャレンジの扉。学問を研究している先生、経験値のある社会人学生、年齢や環境も様々な仲間と対等に話せる機会。学業も趣味になる、と新たな自分に出会えた喜び。

第3席「めでたい気の満ちる部屋で」

境井 絵里香さん
(山口県・会社員)

亡くなった義祖母が使っていた茶道具たちを思いながら、初めて稽古に参加する。その日出されたお茶碗は、偶然にも義祖母に縁のあるものだった。三十路過ぎて「茶道」の世界へ。佳気の満ちた高堂で稽古に励む。

◀北野七重専務理事から賞状を授与される第一席 立石俊夫さん



◀後列左から境井絵里香さん、古井香澄さん、鶴飼真唯花さん、増田晴奈さん、関本康人さん、吉田結花さん
前列左から、立石俊夫さん、北野七重専務理事、耳塚寛明審査委員長、沓澤利治常務理事、伊藤美智子さん



講評

趣味を生きがいとした生活の成り立ちについて



審査委員長
お茶の水女子大学名誉教授

耳塚 寛明

趣味は古典的な存在であると思われるかもしれませんが、趣味を生きがいとする生き方を私たちが手に入れたのは、そう古いことではありません。日本社会で言えば、高度経済成長期とバブル期あたりのこと。食べていくことに苦心せざるを得ない状況では、そこに何ら貢献しない関心や活動は邪魔者でしかありませんでした。その中で、趣味的な活動に没頭する人は変わり者と呼ばれていたことでしょう。しかし、時代は移ろい、変わり者たちは新しい世界を生み出す期待の星へと転身していきます。

年代の通産省。主人公は仕事一筋に生きた風越信吾という男です。この物語には、風越と対照的な存在として、余暇を確保して趣味に生きる片山という男が登場します。異なるライフスタイルが罅迫り合いを演出しますが、物語は風越のように仕事一辺倒で働いてきた庭野という官僚が病院に担ぎ込まれるところで幕を閉じます。このことから、この小説は仕事一辺倒人間たちが主役であった時代から、余暇と趣味に生きようとする人々が登場する時代への転換点を描いた小説として読むこともできます。そしてさらに時代は進み、仕事人間に負のレッテルを貼り付ける考え方も現れるようになりました。

最後に、一つの問いを投げかけて締めくくります。風越信吾は、時代の移ろいの中で、時代遅れの仕事人間であったのかという問いです。答えは否です。国内産業を守り、育てるために仕事に邁進した風越は、私的価値の実現と生活の糧を得る仕事の場が一致した幸運な人間であったと私は思います。そして、趣味の時代の到来は多くの背景要因がありますが、労働からの疎外という点も十分に考えられるでしょう。皆さんの作品を見ると、広くて深い、豊かな趣味の世界が見えてきます。私たちはその世界の裏側に、労働社会からの疎外という人間社会が掲げる課題を見ておかなければならないと思います。

〈私の生涯教育実践シリーズ '23〉

『趣味 広げる世界・ 広がる世界』

1,000円
ぎょうせい刊

ご希望の方は
(株) ぎょうせいまでどうぞ。

URL : <https://shop.gyosei.jp/>



音楽奨学生による披露演奏

表彰式終了後には愛知県立芸術大学の音楽奨学生による披露演奏が行われました。美しい音色に来場者一同が酔いしれました。



響き渡る歌声を披露した
小坂さん



▲お洒落な演奏で皆を魅了した稲田さん



◀左から愛知県立芸術大学 音楽学部長
安原雅之さん
奨学生 稲田悠佑さん、
ピアノ伴奏 工藤まどかさん
奨学生 稲垣みなみさん、同 小坂千尋さん

プログラム

声楽：小坂 千尋さん

愛知県立芸術大学
音楽研究科博士前期課程 声楽領域
「H.Wolf / Er ist's」
「猪本 隆 / きつねがだまされた話」

チェロ：稲田 悠佑さん

愛知県立芸術大学
音楽研究科博士前期課程 弦楽器領域
「D.デラニー / September」
「M.サマー / Julie.O」



雄大で美しい姫路城

歴史研修

2023年
9月27日(水) ~ 28日(木)



丹波・播磨の城めぐり

今回の歴史研修は、戦国武将 明智光秀ゆかりの篠山城と福知山城、そして平成5年に日本で初めて世界文化遺産に登録された姫路城を、大河ドラマ『麒麟がくる』の時代考証をされた小和田哲男先生とめぐりました。



解説

静岡大学名誉教授

小和田 哲男さん



池田輝政「三左ノ内」の刻印をバチリ



石垣の説明をする小和田先生

篠山城

一行がはじめに訪れたのは篠山城。これは豊臣秀吉の死後、徳川家康が豊臣勢力を牽制するために敷いた大坂城包囲網の一つとして築城術に長けていた藤堂高虎によって建てられました。篠山城では彼の高い建築技術が随所に見られます。その一つが、輪郭

難攻不落の八上城

篠山城から見える高城山には、八上城跡があります。八上城はかつて明智光秀の丹波侵攻を食い止める本城として波多野秀治が統治。明智軍の猛攻を一年以上耐えた堅城として今もお語り継がれています。

式の縄張りです。本丸を二の丸が囲み、さらにその上から三の丸が囲む形式で、江戸時代の軍学では理想の形とされていました。他にも、石垣の積み方に特徴が現れています。長方形の石を長辺と短辺が交互に来るように積み上げる「算木積み」が用いられており、他の積み上げ方に比べて丈夫で、きれいな直線を描いています。また、天下普請で築城された城のため、石垣には縄張の記録としてさまざまな大名が家紋やマークを刻印。一行は石垣の刻印石を探しながら、城めぐりを楽しみました。



大書院内部での解説

福知山城

次に向かったのは、1579年(天正7年)に明智光秀が築いた福知山城。光秀を信長殺しの殺人者と捉える人も多いですが、福知山市では町づくりの功労者として讃えられ、神として祀られています。光秀はここ福知山の地で、隣河川の治水工事や地子銭(今で言う固定資産税)の免除など、善政を展開。城内では城の見学とともに、彼の生涯と福知山で挙げた数々の功績を学びました。

また、福知山城も石垣が特徴的です。五輪塔や宝篋印塔などの石造物が転用石として使われていて、個性的な模様を演出しています。近年は、城を堅固なものにする一種のおまじないなのではないか、という説が学者たちの間で浮上しているそうです。



五輪塔や宝篋印塔などが使われた石垣



福知山城を仰ぎ見る

姫路城

二日目に訪れたのは、世界遺産にも登録されている姫路城です。実は城自体の歴史は古く、1333年、南北朝時代の武将である赤松則村によって姫路城の前身である城の建築が始まったと言われています。しかし、建

築当時は表舞台に出るものではありませんでした。スボットが当たったのは戦国時代。織田信長が西国側に勢力を伸ばしていく中、播磨を治めていた黒田官兵衛は信長に謁見し、その家臣である羽柴秀吉の配下に入ります。1580年（天正8年）に中国攻めのため秀吉が入城すると、城を大改修。三層の天守を建設し「姫

路城」という名称を付けました。

さらに、1600年（慶長5年）、関ヶ原の戦いの後には三河国吉田から入城した池田輝政が姫路城の大改修を実施。1617年には、城主となった本多忠勝によって増築が行われ、現在の形になりました。その後も何度も改修が繰り返され、現在にいたるまで美しい姿を残しています。

姫路城は築城以来、大きな被害がないだけでなく、当時の建造物が100棟近く残っていることから、1993年に世界遺産に登録。一行は城内をめぐり、これまでの改修や修繕の歴史を感じ取るとともに、そこに秘められたエピソードを聞き、当時の情景を思い浮かべました。

その後は姫路城を借景にした日本庭園「好古園」に移動し、四季を感じられる美しい風景で旅の疲れを癒やしました。

今回の丹波・播磨城めぐりは、2020年に開催する予定でしたがコロナ禍による延期や中止の影響でようやく開催することができました。今回は石垣に多くの刻印を残す篠山城、明智光秀ゆかりの福知山城、そして世界遺産の姫路城をめぐりました。残暑が厳しい中、参加者の皆様の顔がいつも以上にいきいきしていたのが印象的でした。



指さす先に
あるのは
ハートマーク!?



どこから見ても
絵になる姫路城



姥が石

豊臣秀吉と姥が石

天守近くの石垣には、一部分だけ金網に覆われた「姥が石」という石があります。これは豊臣秀吉が姫路城を改修する際、石垣の石が足りずに老婆から石を譲り受けたところ、その話が広がり、多くの石の寄付から石垣ができたという伝説から来ています。



「にの門」の破風上に残る十字紋瓦



参加者の質問に答える小和田先生



「扇の勾配」と呼ばれる反り返る石垣



姫路城を借景にした好古園の入口



四季折々に楽しめる美しい庭園



川の流れに涼を得る



美術研修

2023年10月10日(火)～11日(水)
講師：美術研究家 沼辺 信一

北の大地のアートをたずねて

本研修で念願であった北海道を初めて訪れました。
残暑の厳しかった東京を離れ、名画、彫刻など北の大地のアートを体感してきました。



2



1



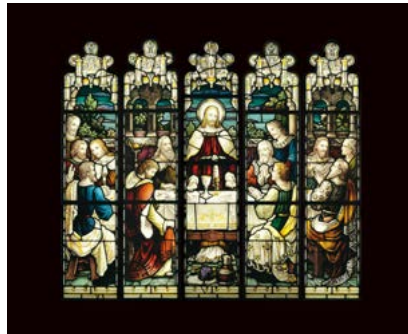
4



3



6



5

小樽芸術村

小樽芸術村は、家具とインテリアの販売で知られる「ニトリ」が2016年に開設した複合的な展示施設で、現在は公益財団法人 似島文化財団が運営しています。小樽が栄華を誇っていた二十世紀初頭に建造された旧荒田商会、旧高橋倉庫、旧三井銀行小樽支店、旧北海道拓殖銀行小樽支店、旧浪華倉庫の5棟を拠点に、それぞれの建物にその時代を華やかに彩ってきた日本や世界の優れた美術品・工芸品を展示公開しています。

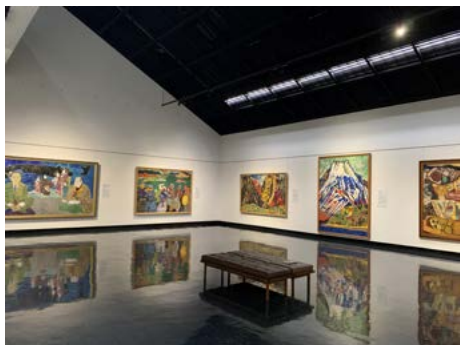
似島美術館（旧北海道拓殖銀行小樽支店）では、ルイス・C・ティファニーのステンドグラス、近代日本の絵画・彫刻のほか、ルノワールの油絵も展示されています。いずれも見ごたえある名作です。

西洋美術館（旧浪華倉庫）には、アール・ヌーヴォー、アール・デコ様式の家具、陶板画、ガラス工芸品、マイセンの磁器などが展示されています。

ステンドグラス美術館（旧高橋倉庫・旧荒田商会）は館内がステンドグラスで埋め尽くされ、思わず荘厳な気持ちに。

旧三井銀行小樽支店は、重要文化財に指定されていて、美しい石積の建築が印象的でした。建物そのものが芸術品と言えるのではないのでしょうか。

小樽の街は、運河周辺にレトロな建物を利用したカフェや土産物店が多くあり、散策も楽しめました。



9



8



7



12



11



10



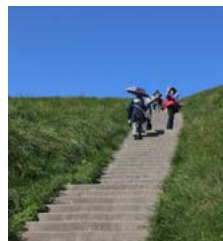
14



13



17



16



15

1 藤田嗣治「カフェにて」1949～1963 2 ピエール・オーギュスト・ルノワール「女性像」 3 佐藤玄々「大慈大悲救世観世音菩薩」 4 西洋美術館 5 ステンドグラス美術館「最後の晩餐」 6 旧三井銀行小樽支店 7 小樽運河の夜景 8 道立近代美術館「揺さぶる絵」展① 9 道立近代美術館「揺さぶる絵」展② 10 三岸好太郎「オーケストラ」1933年 11 三岸好太郎「悪魔」1932年（「オーケストラ」の裏面に描かれている） 12 三岸好太郎「のんびり貝」1934年 13 三岸好太郎「猫」1931年 14 「ガラスのピラミッド“HIDAMARI”」 15 「ミュージックシェル」 16 「モエレ山」 17 「プレイマウンテン」
上記1～5の所蔵元及び6 小樽芸術村（公益財団法人似鳥文化財団） 8～9写真提供 北海道立近代美術館 10～13の所蔵元 三岸好太郎美術館 14～17モエレ沼公園

©画像の転載ならびにコピー禁止

久しぶりの宿泊美術研修で4カ所を巡り、少々欲張りすぎた感がありました。しかし、素晴らしいアートや風景を見て、また訪れたいと思わずにいられませんでした。

モエレ沼公園

札幌郊外にあるモエレ沼公園は、基本設計を世界的に著名な彫刻家イサム・ノグチが最晩年に手がけ、「全体をひとつの彫刻作品とする」のコンセプトのもとに造られました。広大な敷地には幾何学形態を多用した山や噴水、遊具などの施設が整然と配置されており、自然とアートが融合した美しい景観を放っています。晴天にも恵まれ、参加者は、童心に戻って、山に登ったり滑り台を滑ったり、ノグチの世界を楽しんでいました。

「悪魔」が描かれていて、両面展示されていました。三岸好太郎は、短い生涯の中で多様な画風を模索し、次々と変貌させていきました。素朴な情感の漂う人物画、道化や前衛的な手法を用いた作品も制作しました。代表作でもある「オーケストラ」の裏面に

三岸好太郎は、大正から昭和初期の日本近代洋画史を彗星のごとく駆け抜けた札幌出身の画家です。この美術館は1967年に開館した北海道立美術館を前身とし、1977年に現名称となり1983年に道立近代美術館の隣接地で再オープンしたものです。

北海道立三岸好太郎美術館

三岸好太郎は、大正から昭和初期の日本近代洋画史を彗星のごとく駆け抜けた札幌出身の画家です。この美術館は1967年に開館した北海道立美術館を前身とし、1977年に現名称となり1983年に道立近代美術館の隣接地で再オープンしたものです。

北海道立近代美術館

札幌市のほぼ中央に位置する北海道立近代美術館は、北海道を代表する美術館です。展覧会「揺さぶる絵 変貌する日本画のイメージ」が開催中でした。同館と豊橋市美術館のコレクションを中心に、岩橋英遠や片岡球子らの戦後の作品が並びます。見上げるような大きな絵に、まさに心が揺さぶられました。「足立美術館所蔵 近代の日本画と北大路魯山人展―和の美、再発見」も同時開催でした。

財団ニュース

ご報告



ミンダナオ子ども図書館 (MLC)へ 支援物資を送付

毎年恒例となっている、フィリピン「ミンダナオ子ども図書館 (MLC)」への支援物資の寄付も、昨年9月で13年目となりました。みなさんからの善意のおかげで、衣料品やぬいぐるみ、タオル、リュックサック、運動靴など、今年も多く物資が集まりました。子どもたちに素敵なクリスマスプレゼントを届けることができました。



洋服を選ぶ子どもたち

贈られた洋服を手に自然と笑顔に



アウトリーチプログラムへの協賛

当財団では、公益財団法人 目黒区芸術文化振興財団が主催している「アウトリーチプログラム」に協賛しています。この事業は、目黒区内の小中学校に様々な分野のプロのアーティスト(音楽家、ピアニスト、和楽器、弦楽器、管楽器等)を派遣し、観て・聴いて、感じて、芸術文化に触れて一緒に楽しむことを目的としています。体育館で開催された金管五重奏では、楽器の説明や素晴らしい演奏に子どもたちは目を輝かせて真剣に聴いていました。

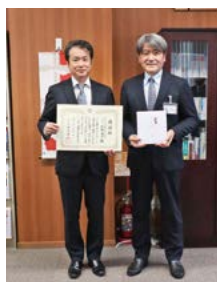
素晴らしい音色を奏でる演奏家



それぞれの楽器の説明

目黒区より感謝状受領

当財団が毎年行っている小・中学校への図書寄贈に対して、1月18日、目黒区から感謝状を授与されました。当財団では目黒区をはじめ全国9つの市区町の小・中学生の心の糧になるように、と多くの図書を寄贈しています。これからも子どもたちの学びのきっかけになるよう図書寄贈を続けていきます。



関根教育長(右)から感謝状を授与された沓澤利治常務理事

お知らせ



第46回 事実に基づく小論文・エッセー募集

「希望」 「未来に活かす私の経験」

いつの時代もどんなときも私たちは希望を見失わないで生きてきました。世界のどこかで今もまだ続いている戦争や紛争、度重なる地震災害や異常気象による自然

災害。どんな状況であっても希望を求めて、いや、どこかに希望は必ずあると信じて生きてきたのかもしれない。

なぜ、こんなにも試練を与えるのか、と恨みたくなることもあったでしょう。でもきつと打ちひしがれた心に明かりをともしず何かを救われたからこそ、私たちは歩みを止めずに一歩一歩、前に進んでくることができたのではないのでしょうか。

人生は山あり谷あり。崖下まで転がり落ちたように感じる時でも、ふと見上げるとそこに新しい希望の光が差し込んでいることに気づくことがあります。

希望の光は人それぞれに違うものでしょう。直接手を差し伸べてくれた人の優しさだったり、本や新聞に書かれている言葉だったり、偶然見かけた出来事や風景だったり...あるいは自分自身を奮い立たせて動いたことから新しい光が見えてきた、ということもあるでしょう。

あなたに希望を与えたその経験を次へつなげてみませんか。今、困難な状況にある人に、あなたの経験が希望やはじめの一步を踏み出すチカラとなり、心のよりどころになるかもしれません。ぜひご自身の経験を綴ってください。

応募規定 縦書き400字詰め
原稿用紙8枚(10枚)

締切 2024年5月7日(火)

賞金

- 1席(1編) 賞状・副賞50万円
 - 2席(3編) 賞状・副賞20万円
 - 3席(5編) 賞状・副賞10万円
 - 佳作(10編) 賞状・副賞3万円
- 入賞発表 2024年9月初旬
- 表彰式 2024年11月8日(金)
- 会場 The Okura Tokyo
(ホテルオークラ東京)

奨学生募集

学習意欲のある社会人を応援

奨学対象

- ・科目等履修生(学生を除く)
- ・放送大学大学院修士全科目生および選科履修生(ただし28歳以上または実務経験3年以上)
- 申込者の中から書類選考のうえ奨学生を決定します。なお奨学金は給付で返済不要です。

締切 2024年5月16日(木)

〈科目等履修奨学生〉

奨学金 年間20万円
定員 15名程度

〈放送大学大学院修士全科目奨学生〉

奨学金 30万円(各年度15万円)
定員 10名程度

〈放送大学大学院選科履修奨学生〉

奨学金 年間7万円
定員 15名程度

美術研修

千葉 佐倉道の美術館を
たずねて

美術研究家の沼辺信一氏と市川
市東山魁夷記念館、DIC 川村記
念美術館をバスで巡ります。

日程 5月14日(火)

8時30分～18時30分

集合

渋谷セリリアンタワー前

定員 36名程度(抽選)

伝承講演会

伝統文化『雅楽』に親しむ

伶楽舎による雅楽の解説およ
び楽器・舞の体験。そして鑑賞(管
弦・舞楽)と盛りだくさんな内容と
なっています。舞台芸術「雅楽」の
世界へご案内します。

日程 6月8日(土) 午後

会場

めぐろパーシモンホール 小ホール

定員 180名程度(抽選)

**辞任・就任の
お知らせ**

2018年から当財団の常
務理事を務めていた城真二が、
2023年11月の評議員会をも
ちまして辞任いたしました。そ
れにともない、杏澤 利治が常務
理事に就任いたしました。引き
続きご指導とご支援のほどよろ
しくお願いいたします。



城 真二
前常務理事



杏澤 利治
常務理事



こ・ち・ら・編 集 室

11月に開催された「研究助成金授与式・論文入
賞者表彰式」では、じつに4年ぶりとなる懇親パ
ーティを開催することができました。
会場では研究内容を詳しくお伺いしたり、論文
についてお話をしたり、助成者、入賞者、先生方、招
待者、音楽奨学生の壁を越えてあちこちで話が
咲き、時間を忘れるほど大変な盛り上がりとなりま
した。
他の方の研究から刺激を受け、新たな気づきが
生まれ別の研究につながっていくということは大
変喜ばしいことです。財団がその一助になれると幸
いでです。
「出会いがドラマ 感動する心を大切に」をモットー
に、財団はこれからも様々な講演会や研修会を企
画し、みなさまへ学ぶ機会を提供してまいります。

設立のねらい

当財団は、スタンレー電気株式会社の創業者北野隆春の
私財提供により、生涯教育の振興をはかる目的で1975年6
月23日、文部省（現文部科学省）の認可を得て発足し、2010
年12月1日に公益財団法人となりました。当財団は、いつ
でもどこでもだれでも学べる機会をつくり、学ぼうとする
方々に対し、より豊かな生きがいを持てるよう、時代が求め
る諸事業を展開してまいります。

生涯教育だより 第134号

2024年3月10日発行

編集人 杏澤 利治

発行人 北野 重子

発行所 公益財団法人 北野生涯教育振興会

〒153-0053 東京都目黒区五本木1丁目12番16号

電話 東京 03 (3711) 1111

表 紙 ギ ャ ラ リ ー

当財団は、『出会いはドラマ、感動する心を大切に』というスローガンのもと、出会いを大切に、様々な学ぶ機会を提供してきました。人との出会いだけではなく、城や神社仏閣などの歴史的建造物や長い歴史に育まれた美しい原風景との出会いからも学ぶことは多いのではないかと考え、『世界遺産』を財団機関紙でご紹介します。

韮山反射炉（静岡県）

2015年に「明治日本の産業革命
遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が
世界遺産に登録されました。西洋から
非西洋への産業化の移転が成功した
ことを証言する産業遺産群により構成
されています。19世紀後半から20世紀
の初頭にかけて、日本は工業立国の土台
を構築し、後に日本の基幹産業となる
造船、製鉄・製鋼、石炭と重工業におい
て急速な産業化を成し遂げました。一
連の遺産群は造船、製鉄・製鋼、石炭
と重工業分野において1850年代から
1910年の半世紀で西洋の技術が移
転され、実践と応用を経て産業システ
ムとして構築される産業国家形成への
道程を時系列に沿って証言しているも
のです。23の構成資産と2の関連資産
からなり、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本
県、鹿児島県、山口県、岩手県、静岡県
の8つの都道府県にまたがっています。

静岡県伊豆の国市にある「韮山反
射炉」は、その一つです。反射炉とは、鉄
鉄（せんてつ・砂鉄や鉄鉱石から作っ
た粗製の鉄で、不純物を多く含む）を溶
かして優良な鉄を生産するための炉で

す。鉄鉄を溶かすためには千数百度の
高温が必要となりますが、反射炉内部
の溶解室の天井部分が浅いドーム形
となっており、そこに炎や熱を「反射」さ
せ、鉄鉄に集中させることで高温を実現
する構造となっています。このように、反
射させる仕組みから反射炉と呼ばれまし
た。炉体と煙突の部分を合わせた高
さは約15.7m、実際に稼働した反射炉
が残っているのは日本でここだけです。
4つの煙突の大きさは圧巻であり、当時
の技術に思いを馳せることができます。

文化庁「日本の世界遺産一覧」HP、
伊豆の国市「国指定史跡韮山反射炉」
HPより一部引用



写真提供：Yoshitaka/PIXTA



スタンレー電気株式会社 社友会 理事

古田 透さん

TORU FURUTA

継続のコツは、まずやってみること そして、小さな目標を立て達成すること

2022年より当財団の評議員を務める古田さん。
当財団の活動や、生涯教育について、豊富なご経験をもとに語っていただきました。

— 古田さんの生涯教育に対する考えをお聞かせください。

これまで生涯教育というものは、私にとって関わりのないものだと思っていました。しかし、財団の活動を通して生涯教育について理解を深めるたび、それは常に私のそばにあったのだと感じています。

生涯教育という言葉聞いて、真つ先に思い浮かべるのは父の存在です。私の父は16歳から短歌をはじめ、斎藤茂吉や土屋文明といった著名な歌人の短歌会に参加するために長野県の飯山市から東京まで頻繁に通っていました。その後は地元で公民館長や図書館長を務める傍ら、住民を巻き込んで月に一度歌集を出したり、街の人を集めて田人塾と呼ばれる会をつくり、歴史や人物のことなどさまざまな講演を開いたりしていました。そんな父の姿は、生涯教育の二つの形だったのではない

かと思っています。

また父の開く会には、年齢や性別、職業を問わず多種多様な人が参加していました。その様子を見て、どのような立場であつても、「学び」を求めている人はたくさんいるんだなと気づくことができました。その点、北野財団は幅広い年代・領域の学習に対してさまざまな支援を行っているのは素晴らしいことだと思います。

— 財団の事業の中で、特に興味深いものは何ですか？

社会に出て職に就いた人が、もう一度大学に入り直して勉強することを助成する「ライフシフト奨学金制度」はとても興味深いですね。学校を卒業しても、自分のやりたいことが決まっている人なんてほとんどいません。仕事をしている中でさまざまなことを経験し、自分のやりたいことが少しずつ見えてくるものです。

しかし、仕事をしながら勉強することは簡単なことではありませんし、大学に入り直すためにはお金もかかります。そんなときにライフシフト奨学金制度があることで、挑戦の関口はますます広がっていくと思います。つい最近、私の息子も大学に入り直すという話があり、その重要性を改めて実感しています。

— 「学び」を始める上で大切なのは何だと思っていますか？

小さなことで構わないので、自分の好きなこと、興味のあることをまずはやってみることだと思います。その際に注意してほしいのは、無理な目標は立てないこと。ゴールが遠ざざると、継続のモチベーションを保つのは難しいです。小さな目標を立てて、成功体験を積み重ねていく。その繰り返しで継続につながると思います。実は私、これまで泳げなかったのですが、ジムのプールで行われていたスイミングスクールを見て興味を持ち、見よう見まねで水泳にチャレンジ。毎週コツコツと練習を重ね、70歳でバタフライを習得することができました。次は100メートル個人メドレーの完走が目標です。

— 趣味を教えてください。

会社に入社したときに始めたゴルフです。今は月に3回ほど、よく同期の4人でコースを回っています。ゴルフはたくさんの人と出会えるのでいいですね。特にコンペに参加すると新しい出会いがあり、そこからつながりが生まれ、別のコミュニティに参加するなんてこともしばしば……。

— 読者の皆さんにメッセージをお願いします。

生涯教育を始めるのに理由などいりません。自分の興味のあるものはもちろん、趣味の延長でも良いでしょう。大切なのはとにかく「やってみる」こと。そしてできる範囲の目標を立てて、それを達成すること。達成感を得るということは、きっと生活にも良い影響が出ると思います。そして、生涯教育で短歌に興味のある人はぜひ長野県の飯山市までお越しください。小京都と呼ばれるほど街はきれいで、図書館には父が保有していた約3,000冊の書物が寄贈されています。なかには短歌に関する珍しい本もあると聞いているので、機会があれば足を運んでみてください。

現在はスタンレー電気社友会の理事を務めていらっしゃる古田さん。社友会の中でも、部活動を立ち上げるなど、生涯教育のきっかけとなる場を提供することを考えているそうです。



月3回の頻度でコースを回っています



父の書物を集めた「古田文庫」飯山市にお越しの際はぜひ足を運んでください